

## トラスロッド

### ●ベント・ロッド

コントラバスのネックには特に補強用の部材などは使われていないようだ。と言うのも、ネックのヒール部がほぼ8フレットくらいの位置で、ネックも指板もエレクトリック・ベースよりかなり厚いので、問題ないのかもしれない。

一方エレクトリック・ベースには最初からアジャスタブルなトラスロッドが装備されていた。フェンダーでは先発のテレキャスターでアジャスタブル・トラスロッドのノウハウを確立していたので、それを応用したものであろう。しかし実際に製作する立場から見ると、ギターのトラスロッドとベースのそれでは仕込み方にいろいろな違いがあり、フェンダーも開発時には苦労したのではないと思われる。

トラディショナルなアジャスタブル・トラスロッドの構造は(図2)のようなもので、湾曲した鉄製のロッドの一端は回転しないようにネック材に固定されており、もう一端にはネジが切られていてアジャスト・ナットが付いている。アジャスト・ナットはネック材に当たっているのを、これを締め込んでいくと湾曲したロッドは引っ張られてまっすぐになろうとする。従ってネックは指板中央部が持ち上がり逆反り状態となるわけだ。初代プレジジョン・ベースのネックはメイプル・ワンピースだったので、トラスロッドはネック裏側から仕込まれ、その溝はコア材で埋められている(写真14)。

### ●その他のトラスロッド

他の方式としては、部材が上下に重ねられたロッドがある。伝

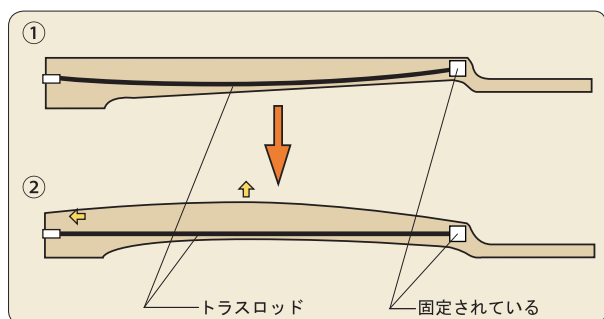


図2：ニュートラル状態ではロッドは曲がった状態なので、ベント・ロッドと呼ばれる。



写真14：この埋木はのちにウォルナットに変更される。あえて目立つ色の材で埋めて、トラスロッドが仕込まれていることをアピールしていると考えられる。

統的なリッケンバッカーのベースのトラスロッドは、鉄の丸棒をつづして平たくしたロッドを中央から折り返したもので、下側のロッドにネジが切られており、ナットを締めると上側のロッドを押しようになっている。押された上側のロッドは上方に湾曲するのでネックを逆反らせることができるわけだ。

このロッドはネックには固定されていないので抜くことが可能だ。リッケンバッカーは一本のネックにこのロッドを2本仕込んでいる。これを進化させたのが、チャンネル・ロッドと呼ばれる、ロッドの上に“コ”の字型の部材(チャンネル)をかぶせてアジャストの効率を高めたタイプのものだ(写真15)。アジャスト・ナットを締めると、チャンネルが上側に湾曲してネックは逆反る。実際のトラスロッドの調整法や、アジャスト・ナットのいろいろなパターンは第2章のネックのメンテナンスのところで紹介しているので、そちらを参照してほしい。

## 新素材ネック

プレジジョン・ベース以来、現在でもベースのネックの素材はほとんどが木材である。ネックにはトラスロッドを始めとする補強が入られているが、4本(以上)の鋼鉄の弦の張力と戦うのは木材にとってはやはり厳しいものがある。そんなわけでこれまで多くのメーカーがベース用ネックに新しい素材を応用してきた。

### ●アルミニウム

1970年代の半ばにはトラヴィス・ビーンがアルミ製のネックを商品化している。指板にはローズウッドを使用。トラヴィス・ビーンの特徴は、ネックだけでなくピックアップやブリッジ部までが一体成形されたアルミ材に載っていることである(写真16)。ネックは中空



写真15：仕込みが簡単で、チャンネル自体が補強にもなるが、ネックが重くなるという欠点も。

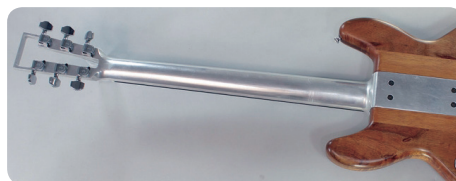


写真16：トラヴィス・ビーンのベース。ミスター・ビーンとは別人。